

形質細胞様の異形細胞を多数認めたマクログロブリンミアの一例

筒井 孝一, 稲田 孝, 本中 由芳, 片柳 敏男, 森井 均, 飯田 美由紀
鳩宿 敏彦 (全国社会保険協会連合会 星ヶ丘厚生年金病院 検査部)

【はじめに】

Bリンパ球の腫瘍性増殖疾患である多発性骨髄腫とマクログロブリンミアは総蛋白の増加, 蛋白分画中にM蛋白の出現, 連銭形成など似ている点が多い. 今回, 骨髄標本で多発性骨髄腫と思われたマクログロブリンミアの一例を経験しました.

【症例】55才, 男性. 現病歴: 2004年2月頃, 全身倦怠感とめまいを自覚. 同年6月16日検診にてTPの高値とM蛋白を指摘される. 同年6月23日当院受診, 同年6月25日精査加療目的にて入院. 既往歴: 35才時アキレス腱断裂でOP. 家族歴: 父, 胃癌

【検査所見】

血算: WBC 5600 / μ l RBC 167万 / μ l Hb 6.9 g /dl Hct 17.5% PLT 17.6万 / μ l

生化学: TP 8.9 g /dl T-Bil 2.4 g /dl AST 20 IU /l ALT 15 IU /l LDH 411 IU /l CK 225 IU /l

蛋白分画: A /G 0.81 α 2 μ 分画 3.99 g /dl
1 γ γ 分画 0.23 g /dl 2 γ γ 分画 0.50 g /dl
3 γ γ 分画 0.71 g /dl 4 γ γ 分画 3.47 g /dl

免疫 γ γ γ : Ig -G 1251 mg /dl Ig -A 136 mg /dl Ig -M 4856 mg /dl

骨髄検査: 有核細胞数 14万 / μ l Plasmocyte 22.55%

【まとめ】マクログロブリンミアは臨床的にリンパ球腫瘍疾患と類似しているといわれています. 本症例は骨髄標本中でマクログロブリンミアを思わせるリンパ球様細胞 (小リンパ球様から形質細胞様リンパ球) が少なく, 形態的に多発性骨髄腫と思われました. しかし, 他の検査所見, 表面マーカー, 臨床症状よりマクログロブリンミアと診断されました. なお, 本症例は血算の項目に影響を与えた為, 測定に注意を要しました.

連絡先 072-840-2641 (内 298)